「令和7年度 近畿地方整備局（港湾空港関係）における総合評価落札方式の新たな取り組みに関する説明会」
 質疑応答集

令和7年3月26日（水）

NO	質問内容	回答
1	P5,6について、業務や役務の発注標準の見直しについて教えてほしい。	業務や役務の発注標準の見直しは行わない。
2	業務能力重視型（チャレンジ型）の評価表の「評価のポイント企業による予定技術者へのバックアップなど、的確な履行を行う上での留意点が妥当である。」について採点方法は他の総合評価の項目と同じか。また、この項目の評価の対象は、企業としてのバックアップ体制のことが、もしくはバックアップの対応手法のことが。	バックアップ体制について技術評価60点満点のうち3点の配点で設定しているが、これは企業による予定技術者へのバックアップなど的確な履行を行う上での留意点が妥当である場合に加点評価するものである。また、評価は3点あるいは0点の2段階である。
3	P7について、評価点を細分化する目的を教えてください。	これまで建設業界の方々から技術提案の評価点に差をつけて競争性を高めてほしいとの要望を頂いている背景もあり、優れた提案をより優位に評価することで、評価点に差をつけることを目的としている。
4	P8の施工計画重視型の試行は年間1～2件程度ということだが、P15のSⅠ型の試行は年間何件程度を予定しているのか？	SⅠ型の試行については、現在調整中であるため確定的に回答できないが、年間1～2件程度になると思われる。（注：本試行は、現在、近畿地方整備局港湾空港部で運用している“技術提案評価型（SⅠ型）”とは全く異なるものであるため、これと区別するために、本試行の正式名称を“技術提案評価型（SⅠ型：技術向上提案型）”等とする予定である。）
5	P15のSⅠ型の試行について、第三者委員会に諮るとあるが、具体的に教えてください。	入札参加者からの提案技術の適用の有無を外部有識者の意見を踏まえて判断するというもの。外部有識者には、入札前の技術提案を評価する時点、及び契約後に技術提案を適用するか否かを判断する時点（変更契約を行う前の時点）の2回を想定している。
6	P14のSⅠ型の試行について、“技術向上提案は予定価格の5%を上限”である旨記載されているが、例えば3%でも問題ないか？	技術向上提案は予定価格の5%以下であれば何%であっても問題ない（3%でも問題ない）。
7	P13について各種認定が存在するが、例えば3種類に認定されている場合、3種類分の加点評価をもらえるのか？	加点対象は1種類分のみであり、複数種類の認定があっても優位に評価されることは無い。
9	技術提案の履行確認の結果を将来的に同種の技術提案の評価の参考にするとのことであるが、いつの時点の履行確認を今後の技術提案の評価に反映するのか。	令和7年4月以降に実施する履行確認の結果をもとに、今後の技術提案を評価する。
10	P9（4）について、「①または②のどちらかを指定して発注する」とあるが具体的に教えてください。	①の場合、A等級の単体、A等級（中小）の単体、A等級とA等級（中小）の単体といった3パターンが想定される。